

看護しずおか[🌿]

特集Ⅰ

地域住民のため、看護職のための地区支部活動 P4・5

特集Ⅱ

～学び・育み・継ぐ～三職能活動 P6・7

先人に聞く 忘れられない看護

妊婦に寄り添う助産師として(最終回) P3

シリーズ 活躍する認定看護師

慢性呼吸疾患・慢性心不全看護認定看護師 P8

平成31年度

Vol.6



会員数 21,102名 (平成31年3月1日 現在)

●保健師…547名 ●看護師…18,956名
●助産師…806名 ●准看護師…793名

すこやかな成長を
幸せを願って



公益社団法人 静岡県看護協会

静岡県看護協会

検索

<http://www.shizuoka-na.jp>

「静岡県看護協会」
お気軽にご利用下さい。



2月16日(土)に助産師職能集会を開催

助産師職能委員会では、県内の助産師が質の高い助産を提供できるように企画運営しています。本年度の職能集会は、助産師としての知識・技術をブラッシュアップし、職能間での情報共有や連携を深めることを目的としました。



講師の山口香苗先生

静岡県内には173名(2017年度)の助産師クリニカルラダーレベルⅢのアドバンス助産師が活躍していますが、ライセンスの更新や、今後認定を目指す助産師のサポートを視野に、必須研修の「妊娠期フィジカルアセスメント」をテーマにしました。

講師は女性の健康と子どものすこやかな成長を願い助産院「大地」を開院された山口香苗院長です。静岡県全域から45名の助産師が参加しました。助産学校を卒業し久しい受講者にとっては妊娠各期における特徴を理解し、フィジカルイグザミネーションの手技を習得する内容は新鮮で、自身の知識を一喜一憂しながら再確認する受講者の姿が多く見受けられ、笑顔が絶えない研修でした。

研修後半の実技では「骨盤ケアの手技」では自身の体のゆがみを実感し、妊産婦の姿勢・骨盤のケアの大切さを痛

感しました。助産師としての感性や妊産婦・胎児から新生児を観る視点を共有し、日々の助産ケア飛躍への糸口をつかんだ様子でした。アンケートでは「非常に参考になった」「とても有難い授業だった」と好評でした。また「自施設の母親学級で今回の学びを伝えていきたい」「自身の助産師としての能力を上げていきたい」等の意見もありました。

研修終了後も講師への質問が絶えず、受講者同士で演習を振り返る姿が印象的でした。



骨盤ケアの手技を実演する講師の山口香苗先生

奨励賞受賞! 平成30年度 静岡県広報コンクール

この度「看護しずおか」は、静岡県広報協会主催の広報コンクールにおいて、平成30年度VOL.3(9月25日発行)が奨励賞を受賞しました。広報委員が「会員に読みやすい広報を届けたい」という努力の積み重ねを評価していただき、大変嬉しく思っています。月1回の広報委員会では、お願いした記事の校正を行います。時には研修や学会などを取材し、記事を書いています。

静岡県看護協会の会員も2万人超となり、多くの会員が読者です。一人でも多くの会員に「看護しずおか」に登場していただきたいと思います。新年度からは新シリーズ「人の一生を支える看護職」と題して看護職の様々な方に登場していただく予定です。自薦他薦、職場推薦OK。是非、この機会に「看護しずおか」紙上で輝いてみませんか。

近年、看護職の働く場は格段に広がり、看護職の果たす役割はますます重要になってきています。看護職として

の成長や提供する看護の質の向上に、看護協会・広報誌「看護しずおか」が役立つことを切に願っています。自分自身の未来のためにも仲間と一緒に看護協会とともに歩みましょう。



読者の 広場 ~Vol.5の感想・意見~

今回は57通と多数の応募、ありがとうございました。名前を書いて送ってね!

「いろんな現場で頑張っている人がいると励になります」

「NICUのNsのコメントが温かく私も認定を取りたいと思いました」

「参加できなかった学術集会の概要や先輩助産師深澤様の活躍の歴史は興味深いものがありました」



先人に聞く 忘れられない看護

妊婦に寄り添う助産師として

富士宮市で50年以上にわたり、6000人弱の赤ちゃんを取り上げ、現役助産師として活躍する深澤静江さんのお話をお届けしてきました。今回は最終回です。

深澤 静江さん



保育園の空き教室を利用した育児サークル

保育園を閉園し、空き教室があったので、平成9年から月1回母親たちを集めて、育児サークルを始めた。産後の乳房ケアもやっている。乳房ケアは大変だが、しっかりとケアすると、柔らかく、フワフワでよく出るおっぱいになる。「乳房マッサージは、何式ですか」と聞かれると「深澤式です」と答えている。乳房ケアは難しいので若い助産師は困っているらしい。出産後5日で退院し、おっぱいがガチガチになって来る人もいる。産後だけ来院する人もいる。平成30年度より富士宮市からの委託事業として、1日6時間赤ちゃんを連れてきて、リラックスするお母さんのための事業や産後2週目健診と1ヶ月健診を実施している。



みんな笑顔の育児サークル

学生実習の受け入れ

以前は静岡県立大学看護学部や聖隷クリストファー大学看護学部の実習生を受け入れていた。今は常葉大学看護学部の学生が実習に来ている。実習生は和室で寝泊まりし、自炊する。実習期間中にお産がない場合は学生をつれて家庭訪問をする。平成31年度からは静岡県立東部看護専門学校に助産学科が新設されるので実習を引き受ける予定である。

これから



授賞式の深澤静江氏

近年、少子化が進み出生率が下がり、出生数は年間96万人ほどになっているが、この世に人間が存在する以上分娩がなくなることはないでしょう。妊娠期間中や分娩、子育てに不安のない人はいないでしょう。何でも相談でき、安心して分娩に望むことができると、生まれた子をいとおしく可愛いと思って育てていけるのです。

平成29年度には市政75周年記念「市政功労賞」を頂いた。健康で助産師を続けられたことに感謝している。私も義母も常に前向きに生きてきた。これからも地域のために、ママ達のために、妊産婦とその家族に寄り添い、安心安全な分娩と育児の支援に助産師として精一杯やっていきたい。

助産師は本当に素晴らしい職業です。

地域住民のため、看護職のための地区支部活動

静岡県看護協会は、賀茂、熱海・伊東、東部、富士、静岡、志太榛原、中東遠、西部の8地区支部で活動を展開しています。地域住民のニーズに対応した看護に関する事業や会員の資質向上に関する事業の中で、平成30年度重点に取り組んだ活動を報告します。

賀茂地区支部

支部長 正木 晶子

賀茂地区支部は、少人数でも地域のイベントに参加して、地域住民の方々に看護協会としての活動を知ってもらえるように働きかけています。

災害看護地区研修受講生が中心となり「身近なものを使ったの応急処置や搬送方法」について、地区の地域防災訓練に参加、指導しています。地区ごと対象者は変わりますが、子供から高齢者まで幅広く関われることはとても素晴らしいです。

また、まちの保健室では昨年度に続き、乳がんのセルフチェックの方法を指導しました。簡単に思っていたことが、なかなか難しく関心度アップに繋がったと感じます。今後も地域住民の方々とふれあい、お互いに学びあい、地域活性に繋がる活動と支援をしながら、健康保持・増進の役目を担えるように活動をしていきたいと思ひます。



東部地区支部

支部長 佐野 文子

東部地区支部は、今年度からの取り組みとして地域包括ケアの推進と多職種連携を目的に、研修会・交流会を開催しました。身近な口腔ケアに焦点をあて、テーマを「肺炎は口で止められた～歯科医師から看護師へのメッセージ～」とし、講師を歯科医師の米山武義先生にお願いしました。病院・訪問看護ステーション・介護施設などから120名が参加しました。

研修会では、ケアの重要性や多職種連携について理解を深め、口腔ケアにおける看護師の役割や、地域としてどう取り組むかを考える機会となりました。

アンケート結果では「当たり前と思って実施していた口腔ケアの重要性を改めて学べた」「最後まで口から食べることの大切さや人の尊厳について考えることができた」「その方の生きる意欲を支えられるケアを目指して日々努力したいです」等の感想を頂き大変有意義な会となりました。今後も地域住民や看護職に還元できる充実した支部活動を行いたいと思ひます。



熱海・伊東地区支部

支部長 前川 美奈子

平成29年度に、地区支部全体の会員アンケート調査を実施しました。地区支部の活動に何を求めるかという設問に①身近な場所での研修会開催②リフレッシュ事業③様々な分野で働く看護職との情報交換の希望が多く挙げられました。

そこで、今年度初の試みとして、研修会と同時に体験ヨガを企画しました。研修会のテーマは「地域包括ケアシステム構築の現状と課題」で在宅医療を担う医師からのお話を伺いました。ヨガのインストラクターは熱海・伊東で活動している講師で、未経験の会員が多いなか、体が硬くてもできるストレッチを中心に1時間実施しました。仕事が激務な皆さんだからこそ、このような機会を活用して心も体もリフレッシュさせて、また翌日からの仕事に活かしてもらいたいと思ひました。今後も働く仲間との情報交換やリフレッシュ事業など、身近で楽しい事業を企画したいと思ひます。



富士地区支部

支部長 高橋 ハマ子

富士地区支部は「富士市健康まつり」に毎年参加しています。2018年のテーマは「健康で笑顔あふれる明るい富士市」でした。開会式では「噛むカムケア8020コンクール表彰」が行われました。口腔がん検診や各種健康チェック、体力診断、食育コーナー、赤ちゃんハイハイレースなど多くのイベントが開催され、地域住民が楽しんで参加していました。

富士地区支部では例年実施している骨密度測定や手洗い体験、なりきり白衣体験などに加え、新たに認知症認定看護師の協力を得て、認知症相談会を行いました。相談会には予想以上に多くの方が参加し、認知症の予防や対応等に熱心に耳を傾けていました。地域住民の認知症に対する関心がとても高いことが実感できました。

今後も、看護協会として関連機関と連携し、会員とともに地域住民のために活動をしていきたいと思ひます。



静岡地区支部

支部長 櫻井 郁子

静岡地区支部が取り組んでいる事業を紹介します。静岡地区支部では、各施設の日頃の看護への取り組みの成果を発表し、看護に対する情報を共有し、看護の質の向上を目的に看護実践報告会を11月23日に開催しました。

今年度は、14施設から19演題の応募があり、113名と多くの参加がありました。

演題内容は、病院だけでなく訪問看護ステーションの発表も2題あり、急性期・慢性期・在宅・精神などの幅広い領域から様々な看護における課題や人材育成、教育等の取り組みについて発表がありました。

質疑応答では、それぞれの施設での実践について、活発な意見交換がされ、情報交換をすることで、先進的な看護活動を学びあう機会となったのではないかと感じました。一般参加の方は、年々増加をしています、看護の質の向上を目指し、今後も幅広い参加を働きかけていきたいと考えています。



中東遠地区支部

支部長 八木 純

中東遠地区支部からは「リフレッシュ研修」と「まちの保健室」の様子をお知らせします。毎年年度の初めの集会の際はリフレッシュできる研修を計画します。今年度は「touch for health」。身体には気のエネルギーが川のように流れる経絡があり、ここがスムーズに流れると元気になるという東洋医学の思想から来ているそうです。経絡と繋がっている筋肉をチェックし、バランスを整えることを体を動かしながら学びました。

参加者の90%がリフレッシュできたと回答があり、みんな笑顔で研修できました。終了後のアンケートには「日常の中でできる事も多く、今後も続けられたらいいと思いました」「気持ちが楽になり、身体が軽くなりました。不思議な感じです」等の感想がありました。

まちの保健室も力を入れている事業です。今年度は、こども支援センターに出向いて、アレルギーについての看護教室を行った後、お母さんの相談に乗りました。アレルギーや食事のことなど具体的に相談できました。今後も専門性を生かした相談を行っていききたいと思います。



志太榛原地区支部

支部長 平野 一美

志太榛原地区支部では看護職の交流会を10月に開催しました。「在宅で暮らすために～つなぐ・つながる看護～」をテーマに、行政や急性期病院や訪問看護ステーション・デイサービス・精神科病院・地域包括支援センター等で勤務する職員から情報提供を行いました。グループワークでは、情報提供で学んだことやこれから実践したいことなどを活発に話し合い、大変有意義なものとなりました。子育て支援を目的にした「まちの保健室I型」を、入園前の親子が集まる子育て支援センターやおやこ館で開催できるよう工夫しました。圏域内の病院が協働して助産師と小児病棟看護師を派遣しています。子どもの発達や病気や母親の身体についてなどの心配事を知る機会になり、地域における看護活動の重要性を実感しています。また、いつまでも健康で働き続けることを目的に、勤労者を対象とした健康教室を開催することができました。今後も、会員や地域住民に向け、より有益で充実した地区支部活動を展開していきたいと思います。



西部地区支部

支部長 鈴木 恵美子

西部地区支部は地域の特性上、イベントへの参加協力および救護派遣、まちの保健室、看護教室、出前授業、災害看護、研修会など、数多くの依頼があり、その企画運営に取り組んでいます。

年間5回実施している看護教室に関して、成果を確認する目的で今年度アンケート調査を行いました。その結果から、地域の皆様からの高い評価を得て地域貢献活動ができていたことが確認できました。

また、年度初めに実施した集会及び講演会「自分らしいエンディングに向かって～終活・はじめの一步～」は91名の参加がありました。

介護職を対象とした研修会「摂食・嚥下障害患者の看護研修」には38名の参加がありました。

今後も、地域の皆様、会員の皆様のニーズを捉え貢献していけるよう、支部活動を充実させていきたいと思っています。



～学び・育み・継ぐ～三職能活動

保健師・助産師・看護師の三職能がそれぞれの専門性を深め、多職種と連携・協働しながら活動を展開しています。平成30年度の重点活動や課題について報告します。

保健師職能委員会

保健師職能委員会は、行政(県・市・政令市)と医療(健診)部門から選出された7人で活動しています。平成30年度の活動目標は(1)地域包括ケアシステム推進に向けた保健師の資質向上 (2)職域間の保健師の連携強化 (3)会員拡大の推進です。

平成30年度の研修会は、昨年度の重症化予防の研修会参加者の要望をふまえ、静岡赤十字病院管理栄養士の伊藤裕子氏が「事例を通した具体的な栄養指導の実際」、静岡県総合健康センター所長の本本愛郎氏が「保健指導で使える運動指導の実際」を講演し、46名の参



加がありました。アンケートでは「すぐに現場で使える内容でよかった」「時間が足りなかった」と大変好評で、次年度も引き続き「栄養」「運動」に関する研修会を企画していく予定です。

職能集会は1月19日に開催し、横浜市健康福祉局健康安全部担当部長の藤原啓子氏が「効果的な保健活動推進に向けた保健師人材確保、育成の取り組みについて」、保健師職能委員長の土屋厚子(静岡県健康福祉部理事)が「ビッグデータを活用した地区診断についての講話があり、42名が参加しました。

参加者からは「データ分析の実際や活用方法について知る機会になった」「保健師のキャリア形成の組織への影響や、保健師の資質向上に繋がるなどの効果を知ることができた」と好評でした。また、看護協会未加入の参加者も多く、今後入会を勧めていく予定です。

来年度は、保健師の資質向上の研修会に加え、保健師助産師看護師の連携強化を図るための交流会を予定しています。また、引き続き保健師キャリア形成の推進についても検討していく予定ですので、御参加お待ちしております。

助産師職能委員会

助産師職能委員会は、7人で活動しています。今年度は全ての妊産褥婦・新生児及び全てのライフステージの女性に助産師のケアを提供するために、専門的技術を高め、より質の高いサービスを提供することを目的に活動をしてきました。

8月には実践能力強化研修として「周産期領域での倫理的課題」について実施しました。周産期領域で起こりやすい倫理的課題について、グループワークを行い、日頃感じている倫理的な悩みを表現する機会となりました。

9月には助産師交流集会を開催しました。今年度は助産師だけでなく保健師看護師も参加がありました。東邦大学看護学部の福島富士子教授が「産後ケア」について、静岡県立こころの医療センター村上直人院長から「産後うつ」について講演がありました。産後ケア事業が始まった経緯とこれからのあり方「産後うつ」への対応を学び知識を深めることができました。この研修では、他職種との意見交換の場となり、多職種連携を図った産後ケアの大切さを改めて認識することが出来ました。また、県内の現状把握のため、6月より県内91の分娩取扱い施設の実態調査を実施した結果を、この研修会で報告しました。調査へのご協力ありがとうございました。この

研修を通して、保助看での連携を強化することの重要性を感じ、来年度の三職能合同研修を企画しています。

1月の新人助産師研修会では、先輩方の話を聞き、これからの人生の歩みを考える機会となりました。2月の助産師職能集会では、CLOCMiPレベルⅢ認証申請に必要なスキルアップ研修「助産師のためのフィジカルアセスメント」を開催しました。

今後も助産師の質向上と、県内のアドバンス助産師が一人でも多く誕生し、主体的に役割発揮できるような専門的な知識技術が取得できる研修等を計画的に企画していきます。



新人助産師研修会参加者

看護師職能委員会Ⅰ（病院領域）

看護師職能Ⅰ（病院領域）は、7人の委員で活発に活動しています。

平成30年度は「地域包括ケア時代における看護の質向上に繋げる活動を強化する」ことを基本方針に地域別看護師長交流会や看護師職能合同交流会、准看護師研修会・進学支援などを開催しました。「看護師長交流会」は「一歩進んだポジティブ・マネジメント」と題して、東部・中部・西部の3地区で開催しました。委員は、本県で開催した「第49回日本看護学会（慢性期看護）」の際に協力員として活動したときのお揃いの青いポロシャツを着用し、チームワークで受講者を支援するスタイルで臨みました。

事後アンケートには「忙しい日々の中で気付かなかったことに気付くことができて有意義な時間だった」「明日への希望が、光がもてた感じ」「青いポロシャツを着ていたため担当者が分かりやすくチームで運営している印象を受け元気になる」など多くの感想が寄せられました。

また、看護師職能合同交流会は「認知症ケアをつなぐ看看連携～尊厳を守り・意思決定を支援する～」をメインテーマとして、講義、シンポジウム、グループワークを行いました。異なる領域の看護職同士がそれぞれの立場で「何ができるか」について、お互いの現状と限界

を本音で話し合うことで更なる連携に活かしていける研修会になりました。

地域包括ケア推進の視野をさらに広げてみると、今後は、多様な人々が地域で暮らすことを支えるためには、高齢者・障がい者・児童、その家族の支援が欠かせません。これらのことを踏まえ、来年度は保健師・助産師・看護師が連携を図ることが重要と考えます。そこで、各職能委員長が想いを共有した結果「三職能交流会」開催の予定です。また、今後も変化し続ける医療提供体制のなかで重要な役割を担う中間管理職の支援、准看護師の進学と資質向上への支援などに取り組む中で意見集約、課題発見に努めます。



看護師長交流会講師の一瀬先生と委員「チームワーク良好!!」

看護師職能委員会Ⅱ（施設・在宅領域）

看護師職能委員会Ⅱ（施設・在宅領域）は、特別養護老人ホーム、老人保健施設、訪問看護ステーション、看護大学教員等7人のメンバーでやりがいを持って活動しています。

平成30年度は「その人らしく‘生きる’を支えるために切れ目なく協働できる看看連携を強化する」を基本方針に病院領域と施設・在宅領域の看護師合同交流研修会や地区別研修会を開催してきました。

さらに「日本看護協会平成30年看護政策推進のための組織強化事業」を受託し、組織力強化のための活動を行いました。具体的には静岡県看護協会入会（再入会）案内用リーフレットを作成し、研修会時や施設訪問時に、活動の紹介・配布をしました。また、施設・在宅事業所向け

に「認定看護師無料講師派遣事業」を企画し、多くの施設から依頼を受け、認定看護師を講師として派遣することができました。

参加者より「認定看護師から最新の知識や情報を聞くことができ、施設・在宅領域で取り組んでいこう」と前向きな意見を聞くことができました。徐々にではありますが、職能Ⅱの領域で働く仲間が増え、仲間の輪が大きくなってきたことを実感し、大変うれしく思っています。

来年度は「施設・在宅看護師のアセスメント能力が向上し、知識と自信を持って施設・在宅の利用者の生活と健康を守っていけるように支援する」を基本方針として活動します。

静岡県看護協会重点事項でもある「地域包括ケアにおける看護提供体制の推進」の実現に向けて、私たち領域の看護職のアセスメント能力の向上は不可欠であり、地域で暮らす利用者の生活と健康を守ることができると思います。

そこで、職能Ⅱ領域の看護職のアセスメント能力向上のための研修会や交流会等を企画・運営していきたいと考えています。

また、病院領域だけではなく、保健師・助産師・看護師が切れ目なく連携・協働できるよう三職能合同交流研修会を開催していきます。



シリーズ 活躍する認定看護師 慢性呼吸疾患・慢性心不全看護認定看護師 編

静岡県には400人余りの認定看護師がいます。今回は慢性呼吸疾患・慢性心不全看護認定看護師のうち5人を紹介します。
今回をもってシリーズ活躍する認定看護師は終了します。

慢性呼吸疾患看護認定看護師



小倉 佑子

浜松赤十字病院

私は2012年に慢性呼吸器疾患看護認定看護師の資格を取得しました。認定看護師を目指したきっかけは、先輩看護師が行う呼吸ケア勉強会に参加し、正しい知識や技術を習得することでケアの方法が変わり、患者さんの苦痛を軽減させることができ、看護の楽しみを見つけることが出来たからです。

患者さんは呼吸器の症状によって苦痛を感じながら、疾患と付き合い生活をしています。患者さんが日々体験している呼吸困難などの症状を少しでも軽減させ、疾患と上手に付き合っていける方法と一緒に見つけていきたいと考えています。



村松 聡子

浜松医科大学医学部附属病院

私は外科病棟、集中治療室を経験後、呼吸器内科に配属となりました。そこは、呼吸困難で苦しんでいる患者さんが大勢いました。何か私にできることはないかと模索していた時に、慢性呼吸器疾患看護認定看護師育成が開始されるという情報を得ました。雷に打たれたように衝撃が走り「これは神様が私にくれたチャンスだ」と

思い、認定看護師を目指すことを決心しました。それから7年、現在私は慢性呼吸不全という病と共に生きている患者さんに寄り添える看護を目指し日々活動しています。高流量の酸素吸入や人工呼吸器を装着している方が、住み慣れた地域で最期まで暮らすための支援の構築に向けて活動していきたいと思っています。



加藤 美奈子

富士市立中央病院

私は、2012年に慢性呼吸器疾患看護認定看護師を取得しました。これまでの看護師人生の半分を呼吸器・腎臓疾患の混合病棟で過ごしたことが、呼吸器系に興味を持つきっかけになり、自己の知識を深め根拠あるケアを学びたいと思い認定看護師を目指しました。現在は外来部門に所属し、救急外来で急性期の患者さ

んへのケアを行っています。また、院内研修や看護学校の講師、禁煙相談などスタッフ教育や患者さんの相談にも関わらせていただいております。同僚や多職種のコラボレーションもあり、認定看護師として少しずつ活動の場を広げています。

慢性心不全看護認定看護師



市川 智子

静岡医療センター

私が慢性心不全看護認定看護師を取得しようと思ったきっかけは、心不全の増悪で入院を繰り返す患者さんに対して「コンプライアンス・アドヒアランス不良」とレッテルを貼ってしまう風潮に疑問を感じたことでした。「そもそも退院時に、再入院しないような看護介入をしていたのだろうか」自分にできることを考えるだけ

であれば自己研鑽で十分であったと思います。しかし心不全患者の多様さと多さ、また生活要因による増悪に対する介入は、病棟看護師が同じ方向を目指す必要があると同時に、医師やコメディカルとの協働も必須です。そのため、常に新しい情報を持ちながら患者さんに最善のケアが提供できる組織作りを目指しています。



大石 真由美

中東遠総合医療センター

私が認定看護師を目指したのは、末期の心不全患者を担当した際にもっと納得した最期を迎えられる看護ができたのではないかと心残りがあったからです。その経験から心不全看護に興味を持ち、認定看護分野がある事を知り、専門的に学習することで、患者さんが安心して退院し生活する支援や最期の迎え方の支援ができ

るのではないかと考え目指しました。現在は循環器内科病棟に所属し、患者さんの生活が大きく変わることなく再入院の予防ができるように専門的な知識を持ち、生活の再調整と一緒に考える姿勢を忘れずに生活指導を中心とした看護を実践しています。その他勉強会などの依頼を受け、心不全看護の向上に努めています。

1

平成30年度 多施設合同新人看護職員研修

教育研修部 大関 和子

静岡県から受託した「多施設合同新人看護職員研修」は5月から全6回開催し、2月6日に閉講式を迎え17施設33名が修了しました。第1回は入職後1か月で戸惑いの多い5月に新人看護職員としての立ち位置を確認し、看護専門職として成長するための考え方を学びました。第2回は感染管理と医療安全の基礎を学び、明日から自分ができる事を確認できました。

第3回のメンタルヘルスケアは3か月間を振り返り自己との向き合い方に気づく研修でした。ストレスチェックで自分が感じている以上にストレスがあることを知り、対処方法を検討して徐々に表情が柔らかくなった楽しい時間でした。

第4、5回の救命救急処置技術とフィジカルアセスメント研修

は、静岡県立総合病院メディカルスキルアップセンターで開催し、最先端の医療施設、教育設備に感激しながら学べました。この後、自施設でフィジカルアセスメントの実践課題に取り組み、第6回のグループワークでは実践報告と意見交換をして実践につながった手ごたえを感じていました。

また1年間の自己の成長を振り返り、2年目の目標を発表し、施設責任者からは「成長が感じられ今後を期待します」という感想が聞かれました。アンケートでは、受講者全員が同期との交流が嬉しかったと述べており、本研修が新人看護職員研修の補完だけでなく、同期と交流の機会を持てることが看護職を継続していくうえでも極めて重要な研修であると改めて感じました。



救命救急処置技術演習



フィジカルアセスメントの演習

2

第7回 静岡県看護学会

私の看護のよりどころ～なぜ私たちは看護をし続けるのか～

学術研究推進委員
原澤 純子

平成31年2月9日、静岡県コンベンションアーツセンターグランシップにて、第7回静岡県看護学会を開催しました。314名の参加者のもと「私の看護のよりどころ～なぜ私たちは看護をし続けるのか～」をテーマに掲げ、基調講演、シンポジウム、演題発表が行われました。基調講演では、NPO法人峠茶屋代表の江森けさ子先生をお招きしました。現在も長野県松本市のグループホームで認知症高齢者と関わり続けていらっしゃいます。その経験の語りから、ナイチンゲールが掲げた「生命力の消耗を防ぐために生活過程を整えること」が、その人の持つ力を最大限に引き出すことを可能にすると、改めて認識できました。疾病等で生きづらさを抱えながら生活する人たちが、生き生きとその人

らしく生活する姿を見ることが、「看護のよりどころ」となるのではないかと感じました。

シンポジウムでは、臨床や教育現場で活躍されている4人のシンポジストの看護への思いを聞くことができました。多くの患者さんと出会い、その生きざまを支え、共に歩んでいく過程そのものが看護のよりどころとなり、看護師自身の成長につながっているのだと実感することができました。口演・示説では、22演題（口演8題、示説14題）の発表がありました。日々の看護実践の中から生まれた問いに真摯に向き合ったこれらの研究結果が、新たな看護のよりどころとして生かされていくことを願っています。



基調講演



示説



シンポジウム

訪問看護師養成講習会への受講目的は達成できたか

訪問看護ステーション すその日赤 及川 由美子

病院の方針で訪問看護ステーションを開設するため指名を受け、主体的な目的がないまま研修に参加した。もともと訪問看護に関する予備知識もなく、あまり興味もなかったので漠然としたイメージしかなく、いったい何をやるのだろうかというのが、正直なところであった。しかし、すでに訪問看護ステーションに配属されることは決まっており、わからないながらも実働しなければならない。介護保険の知識はわずかにあったものの、制度も業務についても未知の中、講習と並行して訪問看護を学んでいければと考えていた。

私の訪問看護に対する印象は重たいもので、単独で判断し、何らかのケアをしなければならない、処置をしなければならない、利用者・家族との関わりはどのように…、在宅での看取りは…とネガティブなイメージや不安が強かった。そんな中、本講習・実習を通して、訪問看護には見守りや予防への関わり、多職種との連携もあり、住み慣れた自宅で安心・安全に過ごしていくための看護をするということが大きな役割を果たすことを実感した。

訪問に伺ったそれぞれのお宅で、利用者本人やご家族が、とても良い表情をされていることが多く、おそらくそれは入院中には見られない表情・雰囲気、いかに自宅で過ごすことが有意義であるかが伺える。

変わりがなければ現状維持を、変化があればいち早く対応する。今後、そのような看護をしていきたいと考えている。

訪問先で自分自身が判断し、対応しなければならない責任感は当然あるが、だからこそ、より自分自身が看護や介護に限らずいろいろな知識や技術を得なければという意欲に繋がる。訪問看護の対象は広く、質の高い訪問看護を提供するためには、幅広い知識とアセスメント力、多方面と連携できる力、利用者・家族、主治医、ケアマネジャーとの信頼関係が大切である。これから訪問看護の醍醐味を味わえるよう、日々学びを深めていきたいと考えている。お会いした訪問看護師の方々も皆はつらつと活気に満ち溢れ、一様に「これだから訪問は、在宅は面白い。楽しい。やりがいがある」とおっしゃる。当初は逃げ腰気味で配属されたが、実際に訪問看護に携わり、少しずつではあるが、様々な業務にも慣れ始めてきた。これからは自分が「訪問看護はやりがいがある楽しい」と心から感じ、周囲に発信できるような存在になっていきたい。



平成30年度看看連携を基盤とした地域包括ケア推進支援モデル事業報告

南豆のケアをつなぐ会Good Care

(下田市南伊豆町圏域)

「最期まで納得のいく時間を支えるということ」のテーマで、平成31年2月1日(金)に講師は角田直江先生をお招きし、下田市民文化会館で多職種向けの講演会を開催し、渡邊昌子静岡県看護協会会長があいさつしました。インフルエンザをはねのけ、131人の参加がありました。



花と海といで湯の街～看-看ネット～

(伊東市圏域)

「患者・家族の思いを叶えるために私たちにできること」～人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスへの支援を専門職として考える～

平成31年1月26日(土)伊東市健康福祉センターで開催し、地域の看護・介護職58名が参加しました。講演の後、各施設からの症例報告を行い、地域のニーズを共に考える第一歩となりました。



静岡県ナースセンター 事業報告及び事業計画

1 再就業準備講習会

今年度は7回(5会場で実施)開催、参加者は66人で2月末現在42人が就業しました。

次年度は右表のとおり(西部会場が変更)実施予定です。最新の看護知識・技術を得て、再就業に向けて踏み出しませんか?

会 場	2019年度 開 催 予 定
静岡県看護協会会館	5月20日(月)・22日(水)・23日(木)
浜 松 医 療 セ ン タ ー	6月18日(火)・19日(水)・21日(金)
三 島 総 合 病 院	7月 2日(火)・ 3日(水)・ 4日(木)
静岡県看護協会会館	9月11日(水)・12日(木)・13日(金)
磐田市立総合病院	10月 1日(火)・ 2日(水)・ 3日(木)
沼津市立病院	11月20日(水)・21日(木)・22日(金)
静岡県看護協会会館	2020年 2月19日(水)・20日(木)・21日(金)

2 介護施設等再就業研修

今年は西部会場を増やし計3回開催しました。44人が参加し2月末現在33人が就業しました。この研修は介護施設等への就業を希望する看護職や介護施設等に就業1年以内の看護職が対象です。高齢者の看護(知識・技術)、看取りなどの学びや施設見学が計画されています。次年度は東部地域での開催を検討しています。

3 看護技術演習

本所と東部支所・西部支所の3会場で演習が受けられます(各会場への電話予約が必要です)。就業相談をしながら看護技術を確認してみませんか?

4 再就業者フォローアップ研修

ナースセンター紹介で再就業した方が看護協会に集まりお互いの就業状況や悩み・思いを共有しました。

2回(7月・2月)開催し、計67人が参加しました。



- 「自分の今」を話すことで振り返りができた。
- 悩んでいるのは自分一人ではないことがわかり、気持ちが楽になった。
- 自分にとっての仕事(看護)の意味が確認できた。



「静岡県 看護のお仕事ガイドブック」を発行しました

- 長く地域でお仕事していただくために、子育て支援と定年後の働きについても掲載しています。ご希望の方はナースセンターまでお問い合わせください。



*次年度も看護技術演習、再就業準備講習会、介護施設等再就業研修を始め、ハローワークでの就業相談等を引き続き開催し、看護職の就業支援を行っていきます。

最新情報はホームページでご確認ください。



*** 悩みは誰かに話しましょう。***

話した内容が他の人や職場に伝わることはありません。お気軽にご利用ください。

悩み専用ダイヤル

054-202-1780 月～金曜日 9:00～16:00

新人専用ダイヤル

090-2183-8734 はなしてみよう 月～金曜日 9:00～16:00

(公社) 静岡県看護協会 静岡県ナースセンター

(相談時間 9:00～16:00 本所のみ火～木は18:00まで)

本 所 : TEL 054-202-1761 FAX 054-202-1762

東部支所 : TEL/FAX 055-920-2088

西部支所 : TEL 053-454-4335 FAX 053-401-3510

下田相談所(毎週木曜日): TEL 080-2650-0327

天竜相談所(毎週火曜日): TEL 080-2650-0237

看護協会総務部

「2019年度災害支援ナース登録（個人登録）」の手続きについて

申請資格のある方は、下記期間で登録をお願いします。期間を過ぎると登録できません。

申込期間：2019年4月1日（月）～4月30日（火）**必着**

登録者に対しては、半日研修を実施します
（2019年8月29日（木）グランシップ）

登録認定期間：2019年5月1日～2020年4月30日（1年間）

申請資格

いずれかの研修修了者

- ・平成24年度「災害支援ナース登録者フォローアップ研修」
- ・平成24年度・25年度「災害支援ナース登録者移行措置研修」
- ・「災害支援ナース育成研修」

- ・静岡県看護協会会員であり、看護職としての経験年数が5年以上の方
- ・災害支援活動に意欲的であり、自己研鑽に努めている方
- ・県看護協会が必要とする災害看護領域の各期において実践できる方

- ・勤務施設及び所属長の理解と協力を得ることができる方
 - ・未就業の場合は連絡手段が確保できる方
 - ・派遣依頼に早急に応じることができる方
 - ・災害支援に支障がない健康状態にある方（年齢は問わない）
- ※「災害支援ナース個人登録申請用紙」はホームページからダウンロードできます。

■ 問い合わせ **総務部 TEL 054-202-1750**

医療安全情報
平成30年度 第6弾

医療安全推進のための取り組み

働き続けられる職場づくり推進委員会

検査や治療・処置の際に検査台から転落したことにより、患者に影響があった事例が報告されています

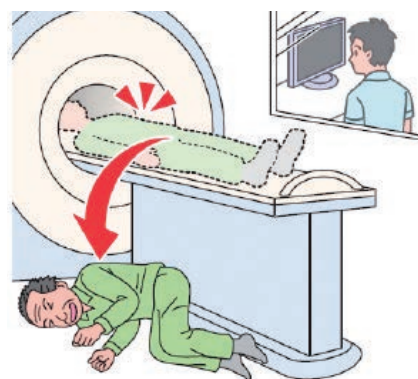
検査や治療・処置の際に患者が検査台から転落した事例が9件報告されています。

（集計期間2014年1月1日～2018年6月30日）

検査時には、理解力がある患者様であっても転落のリスクを考慮し、固定ベルトを使用するなど安全に配慮するとともに、常時観察を怠らないように心掛けましょう。

検査や治療・処置	件数
頭部MRI検査	2
内視鏡検査	2
透視下での処置	2
心臓カテーテル検査	1
脳血管造影・血管内治療	1
胸部X線検査	1

事例1のイメージ



参考 公益財団法人 日本医療機能評価機構医療安全情報 URL: <http://jcqhc.or.jp/>



応募多数のため、クオカードを7名様に!!

次の4文字熟語の□に入る語を並びかえてひとつの熟語を作ってください。

小 □ □ 和

□ 鳥 □ 月

答え. □ □

応募方法

葉書又はメールに答えをお書きのうえ、下記にお送り下さい。
正解者の中から、抽選で7名の方にクオカード（1,000円分）を差し上げます。
当選者は「Vol.1」に掲載させていただきます。（ペンネーム可）

- 右記内容をご記入のうえ、応募してください。
- 答え ● 氏名 ● 所属 ● 電話番号 ● 〒 ● 住所
 - 看護しずおか感想 ● 看護協会へのご意見

お寄せいただいたご意見・ご感想は、看護しずおかに掲載させていただく場合があります。

締め切り 4月24日（水）消印有効

葉書の場合の宛先

〒422-8067 静岡市駿河区南町14-25
静岡県看護協会 総務部 看護しずおかクイズ係
※はがきが62円に値上がりしていますので応募の際はご注意ください。

メールの場合の宛先

メールアドレス
kango@shizuoka-na.jp

当選者 「Vol.5」のクイズの答え：前進

ペンネーム コブ 様・ペンネーム れもんちゃん 様・
ペンネーム 33387 様・北原 祐加 様・大庭 由香 様

訂正とお詫び…平成30年度看護しずおかvol.5 教育研修部だよりの「竹村雪絵准教授」は「武村雪絵准教授」の誤りです。訂正しお詫び申し上げます。



公益社団法人 静岡県看護協会

〒422-8067 静岡市駿河区南町14-25 エスパティオ3階
TEL.054-202-1750 / FAX.054-202-1751 編集責任者:渡邊昌子

平成31年3月25日発行